

入学試験問題



地理歴史

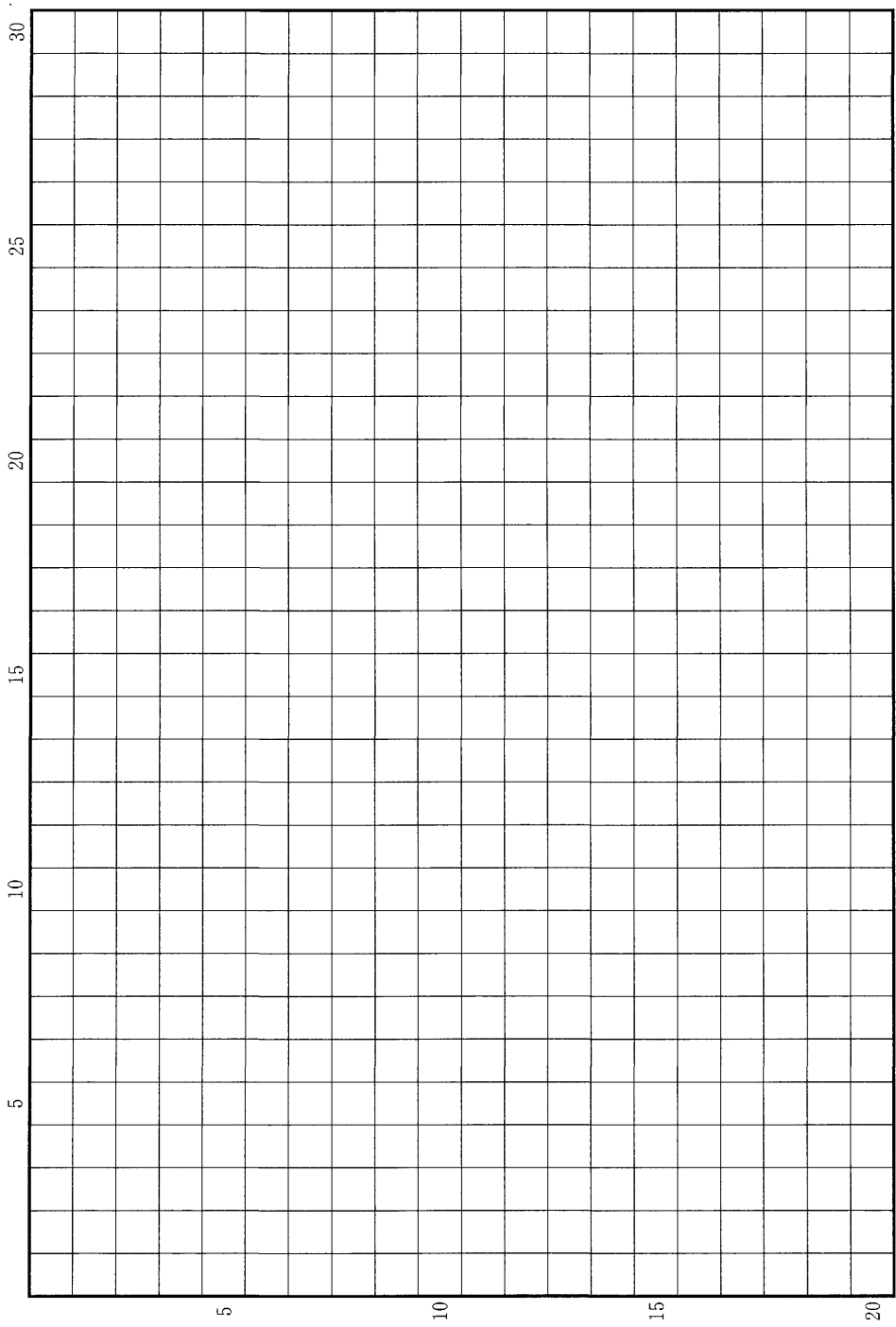
(配点 120 点)

平成 25 年 2 月 26 日 9 時 30 分—12 時

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で 39 ページあります(本文は日本史 4 問 4～13 ページ, 世界史 3 問 14～23 ページ, 地理 3 問 24～39 ページ)。
落丁, 乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら, 手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 日本史, 世界史, 地理のうちから, あらかじめ届け出た 2 科目について解答しなさい。
- 4 解答には, 必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 5 解答は, 1 科目につき 1 枚の解答用紙を使用しなさい。
- 6 解答用紙の指定欄に, 受験番号(表面 2 箇所, 裏面 1 箇所), 科類, 氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。
- 7 解答は, 必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 8 解答用紙表面上方の指定された()内に, その用紙で解答する科目名を記入しなさい。
- 9 解答用紙表面の上部にある切り取り欄のうち, その用紙で解答する科目の分を 1 箇所だけ正しく切り取りなさい。
- 10 解答用紙の解答欄に, 関係のない文字, 記号, 符号などを記入してはいけません。また, 解答用紙の欄外の余白には, 何も書いてはいけません。
- 11 この問題冊子の余白は, 草稿用に使用してもよいが, どのページも切り離してはいけません。
- 12 解答用紙は, 持ち帰ってはいけません。
- 13 試験終了後, 問題冊子は持ち帰りなさい。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



日 本 史

第 1 問

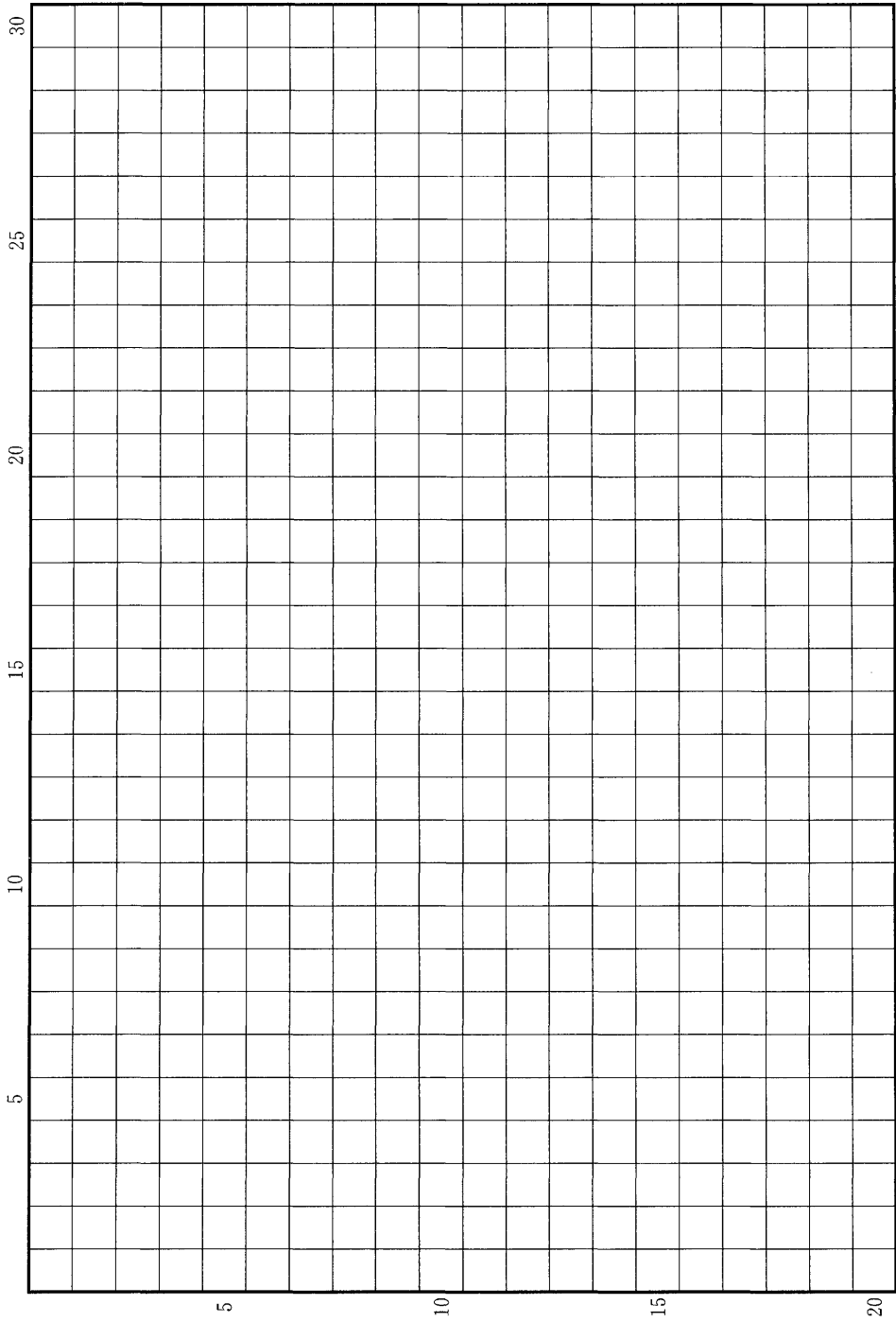
次の(1)~(4)の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。解答は、解答用紙(イ)の欄に記入しなさい。

- (1) 『宋書』には、478年に倭王武が宋に遣使し、周辺の国を征服したことを述べ、「使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王」に任じられたと記す。こののち推古朝の遣隋使まで中国への遣使は見られない。
- (2) 埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣の銘文には、オワケの臣が先祖以来大王に奉仕し、ワカタケル大王が「天下を治める」のをたすけたと記す。熊本県の江田船山古墳出土の鉄刀銘にも「治天下ワカタケル大王」が見える。前者の銘文は471年に記されたとする説が有力である。
- (3) 『日本書紀』には、雄略天皇を「大泊瀬幼武天皇おおはつせわかたける」と記している。「記紀」は、雄略天皇をきわめて残忍な人物として描き、中央の葛城氏や地方の吉備氏を攻略した伝承を記している。
- (4) 475年に百済は高句麗に攻められ、王が戦死していったん滅び、そののち都を南に移した。この戦乱で多くの王族とともに百済の人々が倭に渡来した。さまざまな技術が渡来人によって伝えられ、ヤマト政権は彼らを部に組織した。

設 問

5世紀後半のワカタケル大王の時代は、古代国家成立の過程でどのような意味を持っていたか。宋の皇帝に官職を求める国際的な立場と「治天下大王」という国内での称号の相違に留意しながら、6行以内で説明しなさい。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



第 2 問

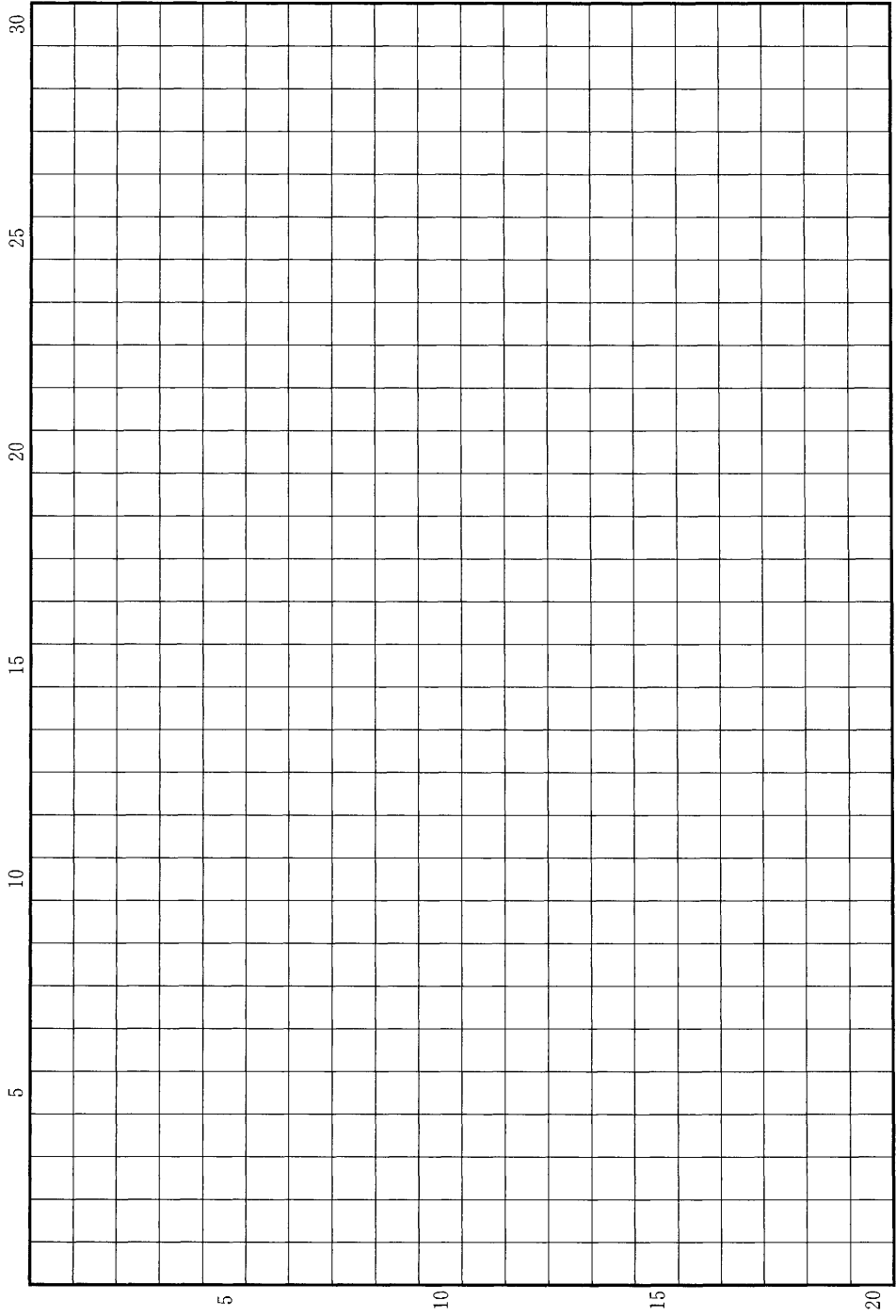
12 世紀末の日本では、西国を基盤とする平氏、東国を基盤とする源頼朝、奥羽を基盤とする奥州藤原氏の 3 つの武家政権が分立する状態が生まれ、最後には頼朝が勝利して鎌倉幕府を開いた。このことに関連する次の(1)～(5)の文章を読んで、下記の設定問 A～C に答えなさい。解答は、解答用紙(口)の欄に、設定ごとに改行し、設定問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 1126 年、藤原清衡は、平泉に「鎮護国家の大伽藍」中尊寺が落成した際の願文において、前半では自己を奥羽の蝦夷や北方の海洋民族を従える頭領と呼び、後半では天皇・上皇・女院らの長寿と五畿七道の官・民の安楽を祈願している。
- (2) 1180 年、富士川で平氏軍を破り上洛しようとする頼朝を、東国武士団の族長たちは、「東国の平定が先です」と言って引き止め、頼朝は鎌倉に戻った。
- (3) 1185 年、頼朝は、弟義経の追討を名目に、御家人を守護・地頭に任じて軍事・行政にあたらせる権限を、朝廷にせまって獲得した。その後義経は、奥州藤原氏のもとへ逃げこんだ。
- (4) 地頭は平氏政権のもとでも存在したが、それは朝廷の認可を経たものではなく、平氏や国司・領家が私の「恩」として平氏の家人を任じたものだった。
- (5) はじめ、奥州の貢物は奥州藤原氏から京都へ直接納められていたが、1186 年、頼朝は、それを鎌倉を経由する形に改めさせた。3 年後、奥州藤原氏を滅ぼして平泉に入った頼朝は、整った都市景観と豊富な財宝に衝撃を受け、鎌倉の都市建設にあたって平泉を手本とした。

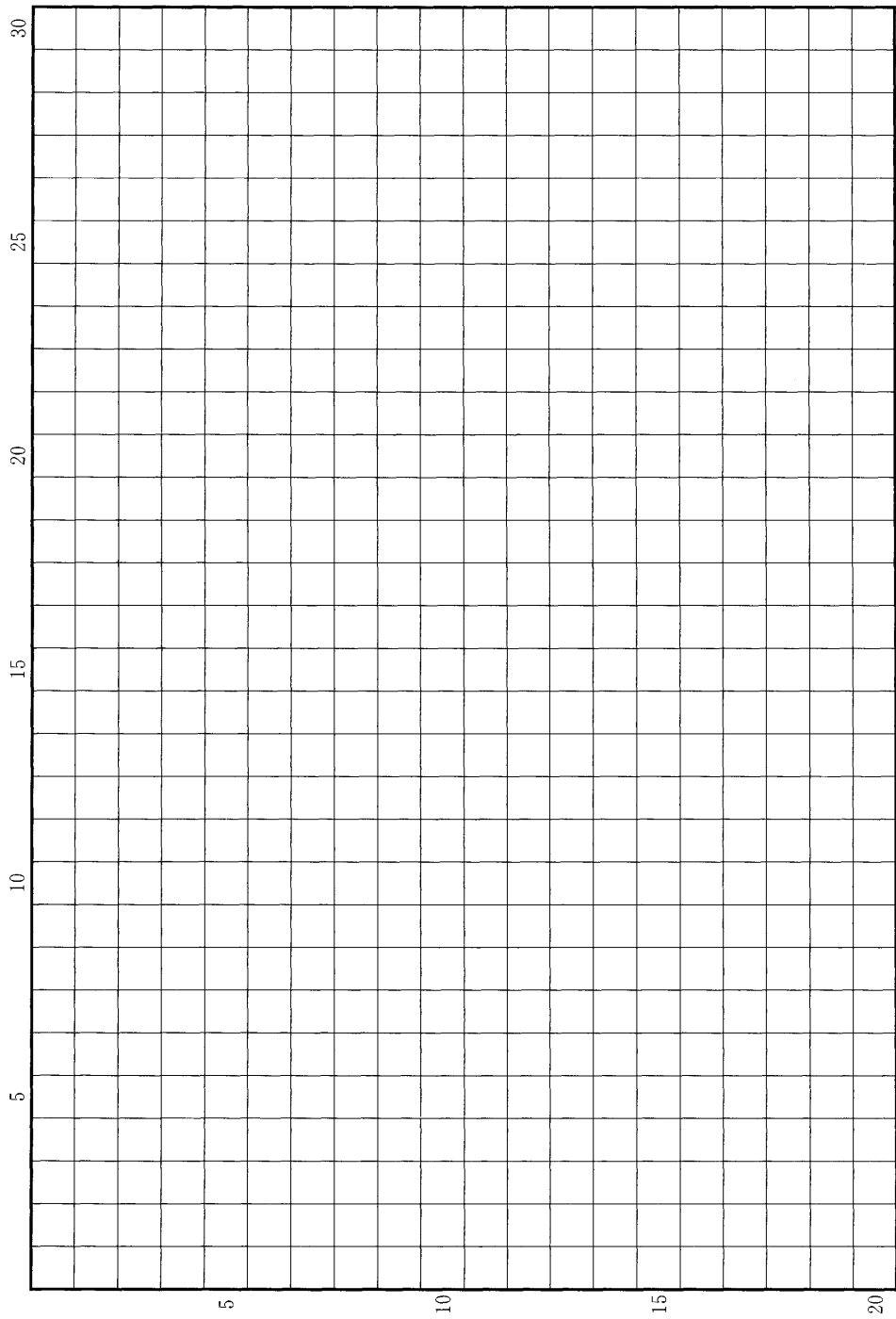
設 問

- A 奥州藤原氏はどのような姿勢で政権を維持しようとしたか。京都の朝廷および日本の外との関係にふれながら、2行以内で述べなさい。
- B 頼朝政権が、全国平定の仕上げとして奥州藤原氏政権を滅ぼさなければならなかったのはなぜか。朝廷の動きを含めて、2行以内で述べなさい。
- C 平氏政権と異なって、頼朝政権が最初の安定した武家政権(幕府)となりえたのはなぜか。地理的要因と武士の編成のあり方の両面から、3行以内で述べなさい。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



第 3 問

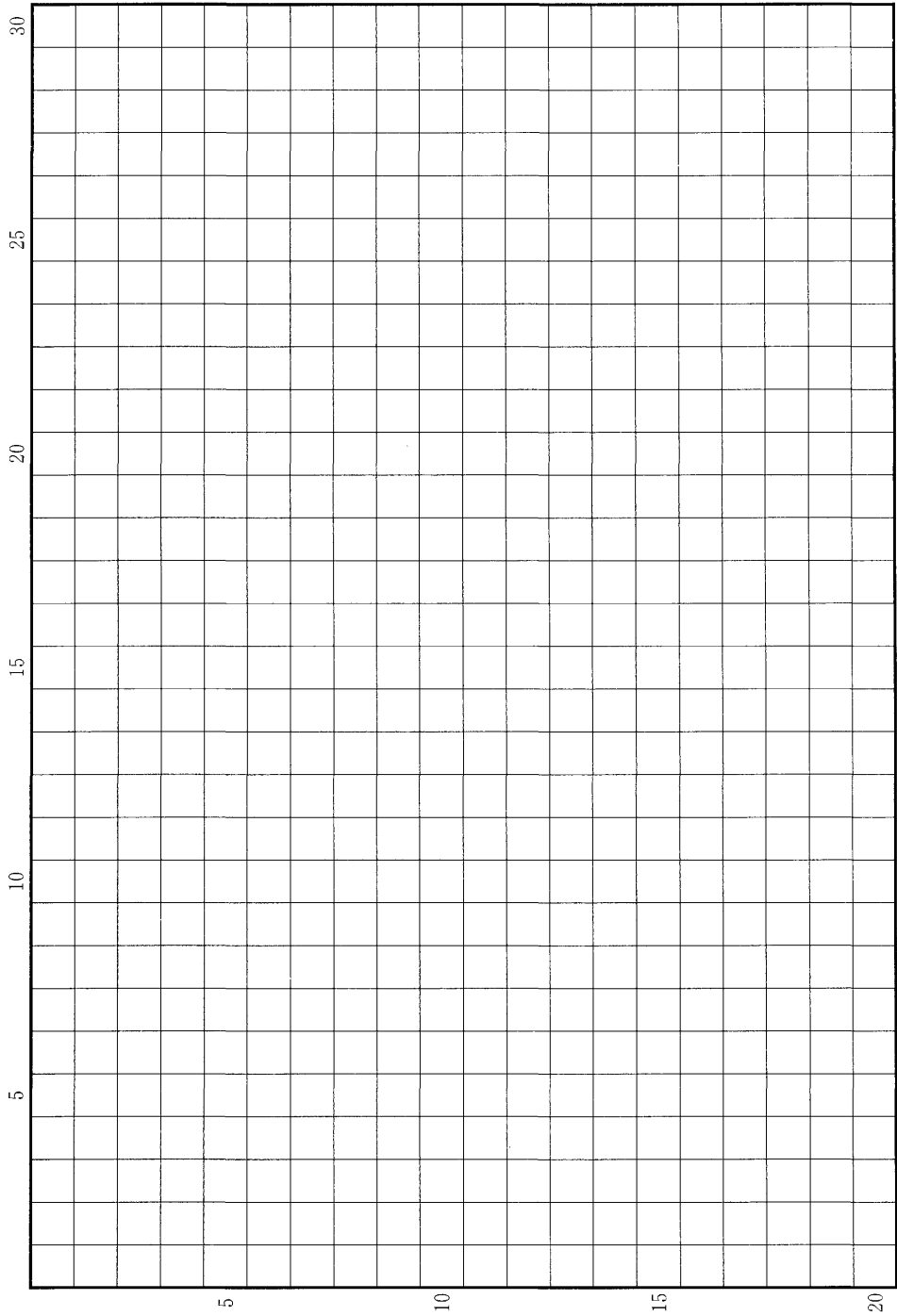
次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(ハ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 江戸幕府は、1615年の大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼした後、伏見城に諸大名を集めて武家諸法度を読み聞かせた。その第1条は、大名のあるべき姿について、「文武弓馬の道、専ら相^{たしな}嗜むべき事」と述べていた。
- (2) ついで幕府は、禁中並公家諸法度を天皇と公家たちに示した。その第1条は、天皇のあるべき姿について、「第一御学問なり」と述べ、皇帝による政治のあり方を説く中国唐代の書物や、平安時代の天皇が後継者に与えた訓戒書に言及している。
- (3) 1651年、新将軍のもとで末期養子の禁が緩和され、1663年には殉死が禁止された。これらの項目は1683年の武家諸法度に条文として加えられた。
- (4) 1683年の武家諸法度では、第1条は「文武忠孝を励まし、礼儀を正すべき事」と改められた。

設 問

- A (1)・(2)の時期に、幕府は、支配体制の中で大名と天皇にそれぞれどのような役割を求めたと考えられるか。2行以内で述べなさい。
- B 1683年に幕府が武家諸法度を改めたのは、武士の置かれた社会状況のどのような変化によると考えられるか。3行以内で述べなさい。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)



第 4 問

明治維新の過程ではさまざまな政治改革の構想が打ち出された。次の文章はのもっとも初期の例で、1858年、福井藩士橋本左内が友人に書き送った手紙の一部を現代語に直したものである。これを読んで下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(二)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

第一に将軍の後継ぎを立て、第二に我が公(松平慶永)・水戸老公(徳川齊昭)・薩摩公(島津斉彬)らを国内事務担当の老中、肥前公(鍋島斉正)を外国事務担当の老中にし、それに有能な旗本を添え、そのほか天下に名のとどろいた見識ある人物を、大名の家来や浪人であっても登用して老中たちに附属させれば、いまの情勢でもかなりの変革ができるのではなかろうか。

設 問

- A 橋本は幕末の公議政体論の先駆者として知られるが、この構想は従来の政治の仕組みをどのように変えようとするものであったか。国際的背景を含めて、4行以内で説明しなさい。
- B この後、維新の動乱を経て約30年後には新たな国家体制が成立したが、その政治制度は橋本の構想とはかなり違うものとなっていた。主な相違点をいくつかあげて、3行以内で述べなさい。

草稿用紙 (切り離さないで用いよ。)

